

京都国立近代美術館平成 21 年度特別展
Press Release Ver. 1 (2009 年 7 月 1 日)

ウィリアム・ケントリッジ——歩きながら歴史を考える

そしてドローイングは動き始めた……

William Kentridge: What We See & What We Know

Thinking About History While Walking, and Thus the Drawings Began to Move...

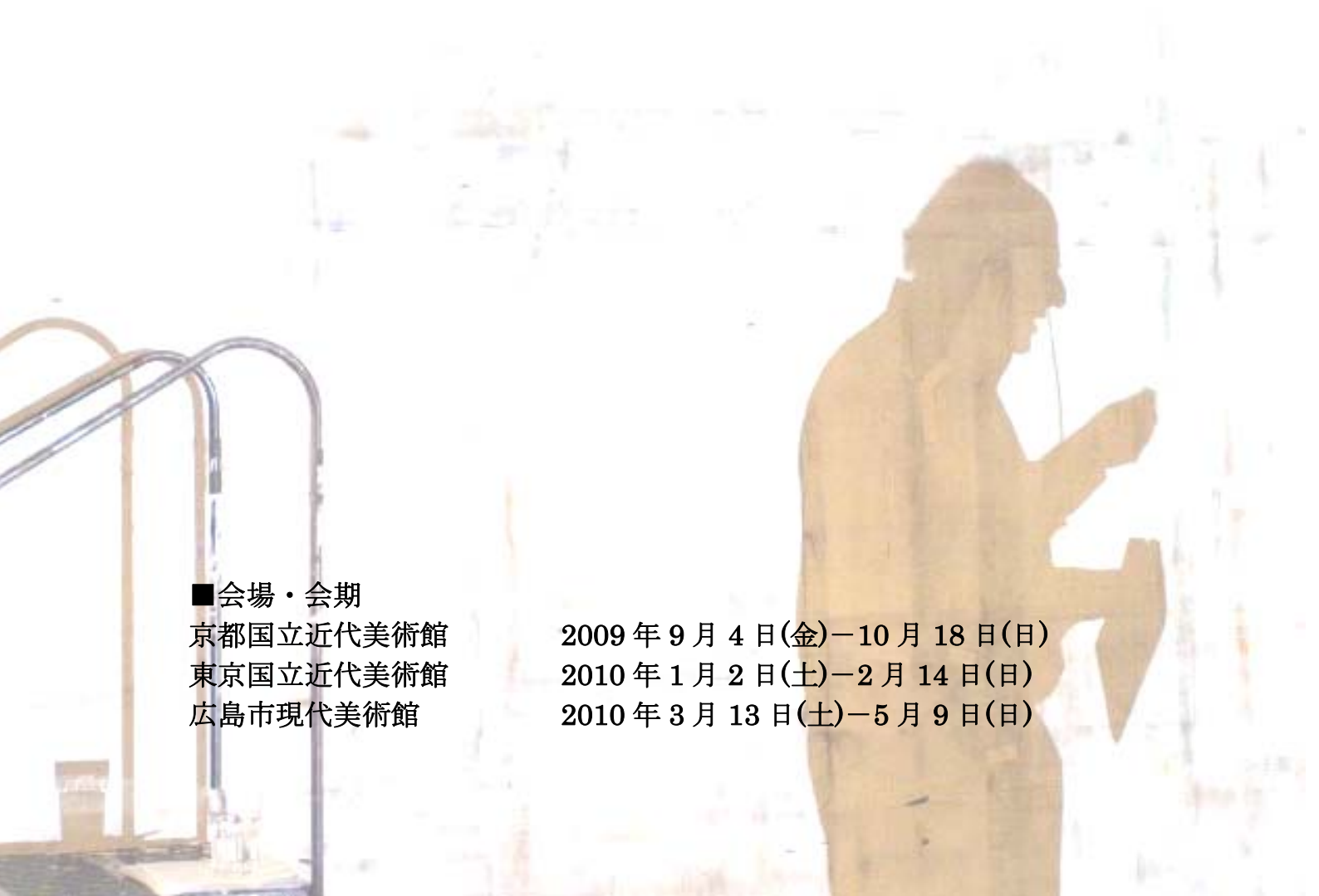
京都国立近代美術館

The National Museum of Modern Art, Kyoto

■会場・会期

京都国立近代美術館
東京国立近代美術館
広島市現代美術館

2009 年 9 月 4 日(金)–10 月 18 日(日)
2010 年 1 月 2 日(土)–2 月 14 日(日)
2010 年 3 月 13 日(土)–5 月 9 日(日)



■ 作家略歴

1955 年生まれ。南アフリカ共和国ヨハネスブルグ在住。ヨハネスブルグの大学において政治学を学んだ後、パリのエコール・ジャック・ルコックにおいて演劇を学ぶ。1980 年代末から、素描をコマ撮りした手描きアニメーション・フィルムを制作・発表する。

1997 年ドクメンタ 10、98 年サンパウロ・ビエンナーレ、99 年ヴェニス・ビエンナーレ、カーネギー・インターナショナル、2000 年光州ビエンナーレ、2001 年横浜トリエンナーレ、2002 年ドクメンタ 11、08 年シドニー・ビエンナーレに参加。

2009 年から 2011 年にかけて、サンフランシスコ近代美術館、フォートワース近代美術館、ノートン美術館（フロリダ）、ニューヨーク近代美術館、アルベルティーナ美術館（ウィーン）、イスラエル美術館（エルサレム）、ステデリック美術館（アムステルダム）を巡回する展覧会が開催中である。また、俳優、演出家、著述家など多彩な分野でも活躍している。



William Kentridge

Photo by John Hodgkiss

■ 日本での出品歴

1998 『第 3 回 ART LIFE 21 「混沌を撃て——エレクトロニックイメージの時代」展』、スパイラルガーデン（ワコールアートセンター）

1999 『立川国際芸術祭'99』、立川市内文化施設ほか

2001 『横浜トリエンナーレ 2001』、第 1 回横浜トリエンナーレ

2002 『スクリーン・メモリーズ』、水戸芸術館現代美術ギャラリー

2004 『アフリカ・リミックス：多様化するアフリカの現代美術』、森美術館
『イン・ベッド—生命の美術—』、豊田市美術館

2005 『ストーリーテラーズ：アートが紡ぐ物語』、森美術館

2006 『カルティエ現代美術財団コレクション展』、東京都現代美術館

2008 『キュレトリアル・スタディズ 03 ウィリアム・ケントリッジ——Part II: 新収蔵作品』（平成 20 年度コレクション・ギャラリー第 10 回・第 11 回展示）、京都国立近代美術館

キュレトリアル・スタディズ 03 の展示についての詳細↓

<http://www.momak.go.jp/Japanese/pressRoom/2008/curatorialStudies03pt2.html>

■ 日本語参考資料

『美術手帖』785（2000 年 4 月）pp. 58–62：河内タカ「Born to Draw—9: William Kentridge」（インタビュー記事）

『横浜トリエンナーレ 2001』公式カタログ(2001)、横浜トリエンナーレ組織委員会

■開催趣旨

このたび京都国立近代美術館は平成 21 年度特別展「ウィリアム・ケントリッジ——歩きながら歴史を考える そしてドローイングは動き始めた……」を開催いたします。

ウィリアム・ケントリッジ（1955 年南アフリカ共和国生、ヨハネスブルグ在住）は、1980 年代末から、ドローイングを映画用撮影カメラでコマ撮りし、文字どおり「動くドローイング」とも呼べるアニメーション・フィルムの制作を開始します。それは木炭とパステルで描いたドローイングを部分的に描き直しながら、1 コマ毎に撮影する気の遠くなる作業から生み出される作品です。絶えず流動し変化し続けるドローイングの記録の連鎖から生まれる彼のアニメーションには消しきれない以前のドローイングの痕跡が残され、堆積された時間の厚みを伺わせる重厚さにあふれた表現となっています。

彼の作品は南アフリカの歴史と社会状況を色濃く反映しており、自国のアパルトヘイトの歴史を痛みと共に語る連作《プロジェクションのための 9 つのドローイング》は、脱西欧中心主義を訴えるポストコロニアル批評と共鳴する美術的実践として、1995 年のヨハネスブルグ・ビエンナーレや 1997 年のドクメンタ 10 を契機に世界中から大きな注目を集めるようになりました。しかし彼の作品を冷静に注意深く解読すると、その政治的外見の奥で、状況に抗する個人の善意と挫折、庇護と抑圧の両義性、そして分断された自我を再統合しようとする努力とその不可能性など、近代の人間が直面してきた普遍的かつ根源的問題を、執拗に検証し語り続けていることが分かります。ケントリッジ自身が「石器時代の映画制作」と呼ぶ素朴な制作技法に固執していることも、それが近代の物語（ナラティブ）生成の原点、あるいは歴史を遡りながら植民地主義の病理を啓蒙主義の中に探ろうとする彼の強い意志によるものと理解すべきなのかもしれません。

精緻なセル画アニメや CG が主流である現代にあって、ケントリッジの素朴なアニメーション技法はその対極に位置していますが、彼の力強い表現は、ドローイングのコマ撮りアニメーションが未だに有力な表現手法となり得ることを証明しており、1990 年代中頃から彼の作品は、世界中の若い世代の美術家たちに大きな影響を与え続けています。

いま世界で最も注目を集める美術家の一人であるケントリッジは、2009 年 3 月のサンフランシスコ近代美術館を皮切りに、フォートワース近代美術館（テキサス）、ノートン美術館（フロリダ）、ニューヨーク近代美術館、アルベルティーナ美術館（ウィーン）、イスラエル美術館（エルサレム）、ステデリック美術館（アムステルダム）を会場に、大規模な世界巡回展が進行しています。

日本での展覧会は、京都国立近代美術館とウィリアム・ケントリッジとの 3 年間にわたる緊密な協力と広範な準備作業を経て実現されるもので、我が国では初の個展となります。南アフリカの歴史を扱った代表作《プロジェクションのための 9 つのドローイング》(1989–2003) から、ショスタコーヴィチのオペラ『鼻』を題材にした最新作の《俺は俺ではない、あの馬も俺のではない》(2008)まで、フィルム・インスタレーション 4 点を含む 19 点の映像作品と、36 点の素描、63 点の版画によりケントリッジの活動の全貌を紹介します。



■開催要項

ウィリアム・ケントリッジ——歩きながら歴史を考える

そしてドローイングは動き始めた……

William Kentridge—What We See & What We Know

Thinking About History While Walking, and Thus the Drawings Began to Move...



会場：京都国立近代美術館 3階展示室、4階コレクション・ギャラリーの一部

会期：2009年9月4日（金）～10月18日（日）

開館時間：午前9時30分～午後5時（金曜は午後8時まで開館、入館は閉館の30分前まで）

休館日：月曜日（9/21（月・祝）と10/12（月・祝）は開館、10/13（火）は休館）

主催：京都国立近代美術館、東京国立近代美術館

協力：広島市現代美術館

後援：南アフリカ共和国大使館

観覧料：一般／当日：850円、前売：700円、団体：600円

大学生／当日：450円、前売：350円、団体：250円

※団体は20名以上

※高校生および18歳未満、心身に障害のある方と付添者1名は無料

（入館の際に証明できるものをご提示ください）

※本料金でコレクション・ギャラリーもご覧になれます。

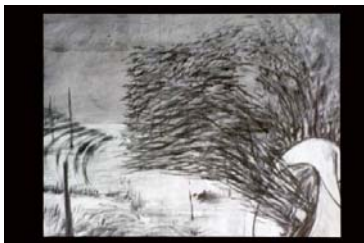
巡回先：東京国立近代美術館 2010年1月2日（土）～2月14日（日）

広島市現代美術館 2010年3月13日（土）～5月9日（日）



■作品構成

フィルム・インスタレーション4点を含む映像作品19点、ドローイング36点、版画63点。計118点で構成



■展覧会カタログ（2009年9月3日刊行予定）

A4版フルカラー、220ページ、日本語・英語（完全2カ国語）

■お問い合わせ

京都国立近代美術館 〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 Tel 075-761-4111

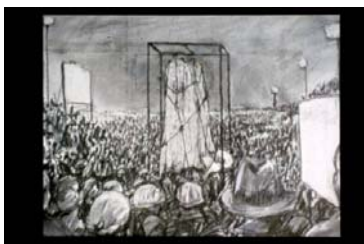
事業係：青山杏子 Tel 075-761-4115

学芸課：池澤茉莉 Tel 075-762-1711

（作家への取材は必ず事前にご連絡下さい）

URL: <http://www.momak.go.jp/>

e-mail: info@ma7.momak.go.jp



■関連イベント

ウィリアム・ケントリッジによるレクチャー／パフォーマンス

「I am not me, the horse is not mine」

日時： 2009年9月4日（金）、午後7時～午後8時頃（開場は午後6時30から）

会場： 京都会館第二ホール 〒606 - 8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13番地

主催： 京都国立近代美術館

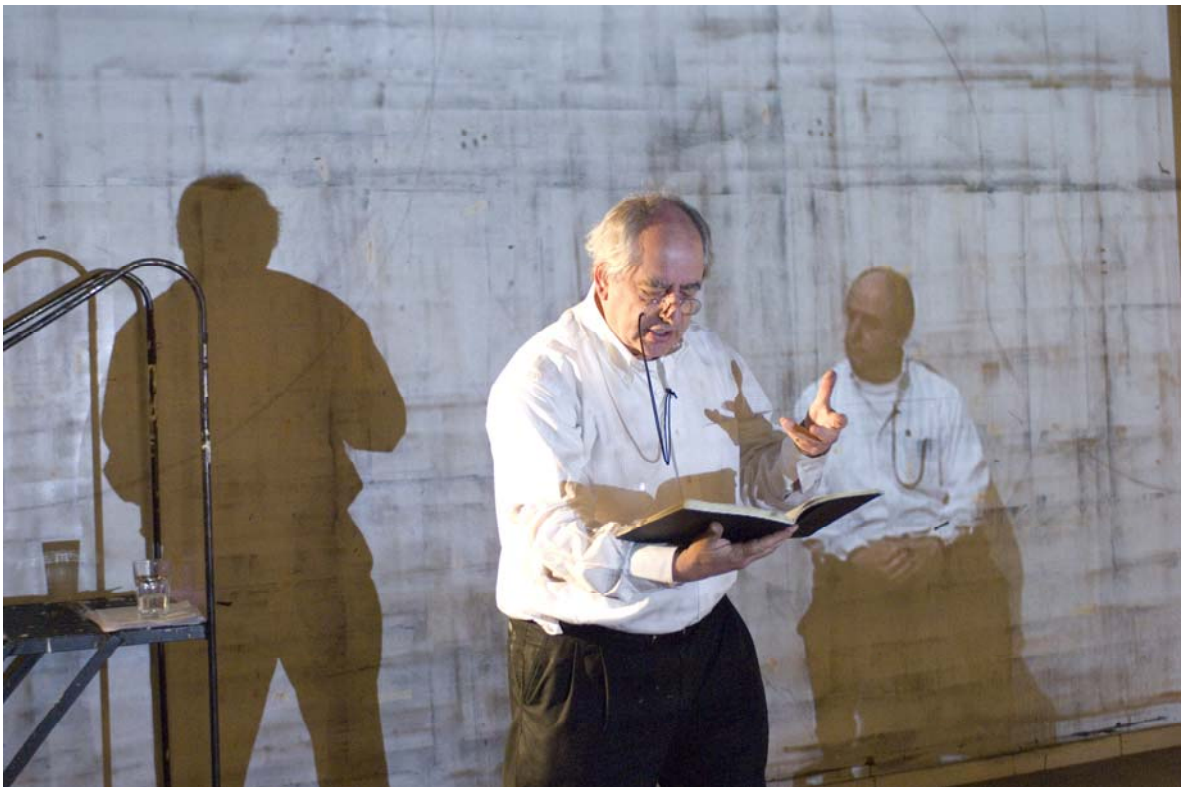
入場無料（約700席）

お問い合わせ： 京都国立近代美術館 学芸課 Tel 075-762-1711 池澤茉莉

自作のテキストの朗読と、ケントリッジが登場する映像と本人が共演するパフォーマンスをミックスしたステージ。ニコライ・ゴゴリの短編戯曲『鼻』（1836）とこれを原作とするドミートリイ・ショスタコーヴィチ作曲の同名のオペラ（1930）が題材となっている。

ケントリッジの最新作《俺は俺ではない、あの馬も俺のではない》の制作過程から生まれた作品で、一種の不条理劇の中に「アトリエの美術家」、「分裂した自己」という他の作品に通底するテーマと同時に、弾圧され歴史から消し去られたロシア・フォーマリズムのユートピア運動への限りない共感と哀惜が込められている。様々なテキストが引用されているが、特に1937年2月26日の党中央委員会におけるブハーリンの弁明からの引用は、体制の暴力に押しつぶされる知識人の悲劇を象徴し聴衆を深い感動に誘うものがある。

この作品の原型は2008年6月のシドニー・ビエンナーレで上演され、2009年3月のサンフランシスコ近代美術館での上演でほぼ完成形に至っている。



ステージ上のケントリッジと、プロジェクションに映る本人との掛け合いとなっている場面。

■ 広報用素材例 (必要に応じ、出品作品の全ての画像データを提供できます)

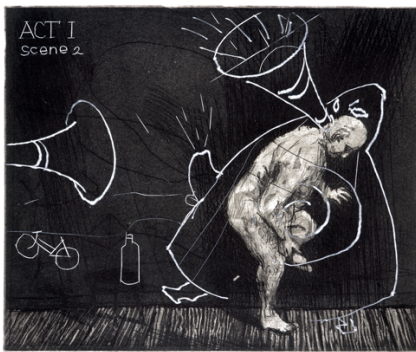


1) 《流浪のフェリックス》のためのドローイング
[フェリックスの部屋／望遠鏡を覗く
ナンディ]

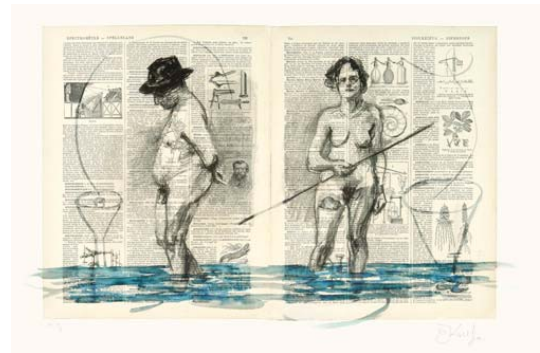
1994、ドローイング (木炭、パステル、紙)
作家蔵



2) 《鉱山／私のもの》(スチール画像)
1991、アニメーション、5分50秒
作家蔵



3) 《ユビュ、真実を暴露する：第1幕第2場》
1996-97、版画
作家蔵



4) 《スペクトロメーター (分光計)》
2000、版画
作家蔵



5) 《俺は俺ではない、あの馬も俺のではない》より《同志鼻陛下》(スチール画像) 2008、
8つの断片映像によるインスタレーション
京都国立近代美術館蔵

※全作品 © the artist